



平成25年度
「酪農フィールド科学演習」
（8月27日～30日）は終了致しました。

平成25年度「酪農フィールド科学演習」が開講されました

1. 本授業開講の趣旨

平成21年に本農場が「教育関係共同利用拠点」に認定され(認定期間：平成22年6月10日～平成27年3月31日)、農学系の学部学生を対象とした「酪農フィールド科学演習」も3年目の開講を迎えました。本年も昨年度の改善点を踏まえた上で、平成25年度8月27日(火)～8月30日(金)にかけて3泊4日の集中演習が実施されました。

本演習では、教育共同利用拠点の認定を受けた本農場(附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター西条ステーション)において、農学の基礎知識を有している学生が農場における日々の飼育管理作業を体験しながら草と家畜(特に乳牛)と土の循環の中でミルクや肉を生産し食品に加工していく過程を講義および実習を通して学ぶことで、「農業」と「食」の関わりについてより深く考えることを目指しています。

2. 受講生

受講者の所属大学および学部、学科等別の人数は以下のとおりでした(五十音順)。

大学等	所属	受講者数
岩手大学	農学部獣医学科	1名
愛媛大学	農学部生物資源学科	4名
岡山大学	農学部総合農業科学科	4名
高知大学	農学部農学	1名
島根大学	生物資源科学部生体環境科学科	2名
	生物資源科学部農林生産学科	1名
鳥取大学	農学部獣医学科	1名
	農学部生物資源環境学科	5名
広島大学	生物生産学部生物生産学科	11名
山口大学	農学部生物機能科	1名
	農学部生物資源環境科	6名
受講者数(合計)		37名

3. 講義および実習内容

詳細は演習スケジュールPDFファイルをご覧ください。

4. 演習の様子

本演習では農場で実際に家畜と身近に接しながら管理作業を行い、酪農に関する実習を通して「食」と「農業」との繋がりに関して受講生一人一人が考えを深めました。最終日にはパワーポイントを用いた課題発表会が設定されており、受講生らは事前に知らされた課題テーマについて、講義や実習で学んだり体験したことを基に班ごとに発表会の準備に取り組みました。受講生らは各大学で農学という共通の分野を学びながらも、大学や学年、専門の異なる学生との交流を通して「食」と「農業」に対する多様な価値観を知り、理解を深めました。



<実習前ガイダンス>

1日目は実習のスケジュールや実習を受講する上での注意事項について担当教員から説明がありました。農場で実施されたガイダンスでは、事故や怪我に対する注意喚起があり、受講生らは真剣な表情で聞いている様子でした。



<歓迎会・交流会>

初日の夜には受講生や教職員が一人ずつ自己紹介を行い、軽食を摂りながら4日間を共に過ごす班員や仲間たち、TA、教職員と親睦を深めました。



<家畜管理：給餌>

受講生は朝と夕方に飼料の調整や畜舎の掃除をはじめとした様々な飼養管理作業を体験しました(写真は育成牛への給餌の様子)。



<乳牛の人工授精>

人工授精の様子を見学すると共に生殖器を解剖して観察することで、実際に生産の現場で行われている繁殖管理の技術や受精のメカニズムについて学びました。



<家畜管理：乳牛のブラッシング>

農場の管理作業では実際に家畜(乳牛)に触れながら世話を体験する事で、「家畜」の表情や体温を感じ取り、「家畜」を単なる「食材」ではなく「感情や命のある存在」として認識した受講生も見られました。



<牛乳の飲み比べ>

スーパーで売られている牛乳が出来るまでの過程や牛乳の種類について学びました。牛乳の飲み比べでは、多くの受講生が種類を正しく分類することができず、身近な食品であるだけに驚きの声があがっていました。



<牛の胃のしくみをさぐる>

乳牛のや肉牛を飼育するための基礎的な知識を得るために、ウシの消化のメカニズムに関する講義と実習が行われました。



<修了証書授与式>

最終日の課題発表会後には受講生に対して、前田センター長から本演習の修了証書が授与されました。